

特集 いま素材が魅力
太陽の恵みが香る特別の果汁
オリーブオイル



お酒で至福のひととき

Vol.8

「わらづとキャンティ」ピザ屋の娘が愛するのは

ワインコーディネーター

友田晶子

酒処・福井県生まれ。日本酒、焼酎、チーズ、テーブルマナーにも通じ、セミナー講師、輸入業者・酒販店・飲食店のコンサルタントとして活躍。著書に「女とお酒のいい関係」(小学館文庫)、「いつのまにやらワインが職業」(新潮社)などがある。
<http://allabout.co.jp/gourmet/sake/>

私の実家はイタリア料理店だった。というより「ピザパイ」を出すピザハウスといったほうが正しいかもしれない。東京においてさえピザはまだ新しい食べ物として流行り始めのころだった40年近く前に、福井県という田舎でピザ専門店をはじめた両親の怖いもの知らずには驚くが、芸術家やお医者さん、弁護士の先生など余裕と遊び心のあるお客様が通ってくる、わりあい評判の店だったようだ。

当時人気店であった東京のピザレストランの協力を得て、イースト菌を混ぜ発酵させて作る生地、トマトから作るソース、熟成したサラミ、外国から取り寄せたチーズなどを使い、当時としてはかなり本格派のピザを提供していた。厨房に取り付けたこれまた本場スタイルの大きな焼き釜は、子供心にはかなり怖かったのだけれど、焼き上がりのピザの香ばしいにおいは、怖さをふきとばす実に魅力的なものだった。

私のおやつはもちろんピザ。誕生日やクリスマスときもケーキではなく大判のピザだ。友達はもちろん学校の先生までもがやってきて、放射状に8つに切ってもまだ大きいピザを、チーズの糸を長く長く伸ばしながら、みんなでたいらげた思い出がある。

当時の写真を見ると、店の天井や壁やテーブルに、キャンティのボトルが飾られているのがわかる。あのボトルの下半分が「わらづと」でくるまれた独特のスタイルのイタリア産赤ワインだ。あのころ福井で手に入るワインはきつとあれしかなかったのだろうとも思うが、ピザやスパゲッティに合わせるなら、なんてったってすっきりさっぱりと軽い味わいのキャンティがピッタリくる。とくに「わらづとタイプ」は渋みの少ない赤ワインが入っているのでより飲みやすい。

最近あのボトルを作る職人さんが減ってきたので、悲しいかな、見かけることは少なくなってしまうようだ。それにボルドーワインのよ



うなボトルに入ったワンランク上のキャンティ(正しくはキャンティ・クラシコという)がしっかり濃厚な味わいで世界的に人気となり、ちょっぴり田舎くさい「わらづとキャンティ」はなんだか肩身の狭い思いをしているようだ。

キャンティと手作りピザの生活をしていた我々家族が驚いたのは、冷凍ピザが発売されたことだった。家族で神妙にこの新参者を味わったときの評価は当然惨憺たるもの。さらにその後ピザトーストが登場したときは、うちの両親、失神寸前だった。子供だった私でさえ「は～、世の中変わったもんだ」なあって感じたくらいだから。

しかし、最近のピザは違う。急増している専門店では、石釜焼きナポリ風でも、もっちりシカゴ風でもありとあらゆるスタイルの本格ピザが食べられるし、各社デリバリーも充実している。スーパーで買える冷凍やチルドでも「正直イタリアで食べるより美味しいぞ」ってなものさえ登場している。

今年3月に亡くなった父に、最近の進化した冷凍ピザを食べさせてあげたら「お、これはうちの味だな」なんて言うかもしれないと、キャンティを飲みながらふと考えてしまった。

イラストレーション/漆原冬児

編集後記

猛暑続きの8月がようやく終わった。夏の風物詩・甲子園大会では、最後まで諦めない高校球児のひたむきな姿勢が今年も多く感動を呼んだ。今時の若者は……と否定的な見方をされる時代にあつて、勝利に向かって懸命に取り組む姿は新しい時代に大きな希望や夢を与えてくれる。

主催新聞社の記者にこんな話を聞いたことがある。全国の地方支局の記者たちは、都道府県の予選から小まめに取材を続け、甲子園開催の間は、郷土の代表高校と同じ宿舎に寝泊りし、取材活動をする。そのときの高校生たちの、勝つためにひたむきに練習する真剣さからは、教えられることも多いと言っていた。郷土の代表として礼儀正しく明るい高校生は、我々の誇りでもあると。

時代が変化する中で、先輩が築いてきた文化や習慣と、最近の若者の行動には、少なからずギャップがある。そのため、どうしても大人たちは、若者の行動に否定的になっ

てしまふ。
少子高齢化を迎えている昨今、老若男女が違う文化を認め合いながら成長を続けなくてはならない。企業成長においても、今の若者が中心になる時代が間違いなくやってくる。育った時代や環境が違っても、個性を認め合いながら、大きな気持ちで若者の行動を受け入れたものだ。(N)